

横浜市 歴史 博物館

NEWS

24

2007・3

◇いんたびゅー 藤木久志

戦国時代の城は軍事拠点でなく地域全体の「センター」だった

◇特別展「ヒトが移る、モノが動く」

—古代の東国にその痕跡を探る—によせて

◇＜研究余話＞企画展「ちょっと昔を探してみよう」と観覧者

—「懐かしの道具たち ひとこと思い出コーナー」—から

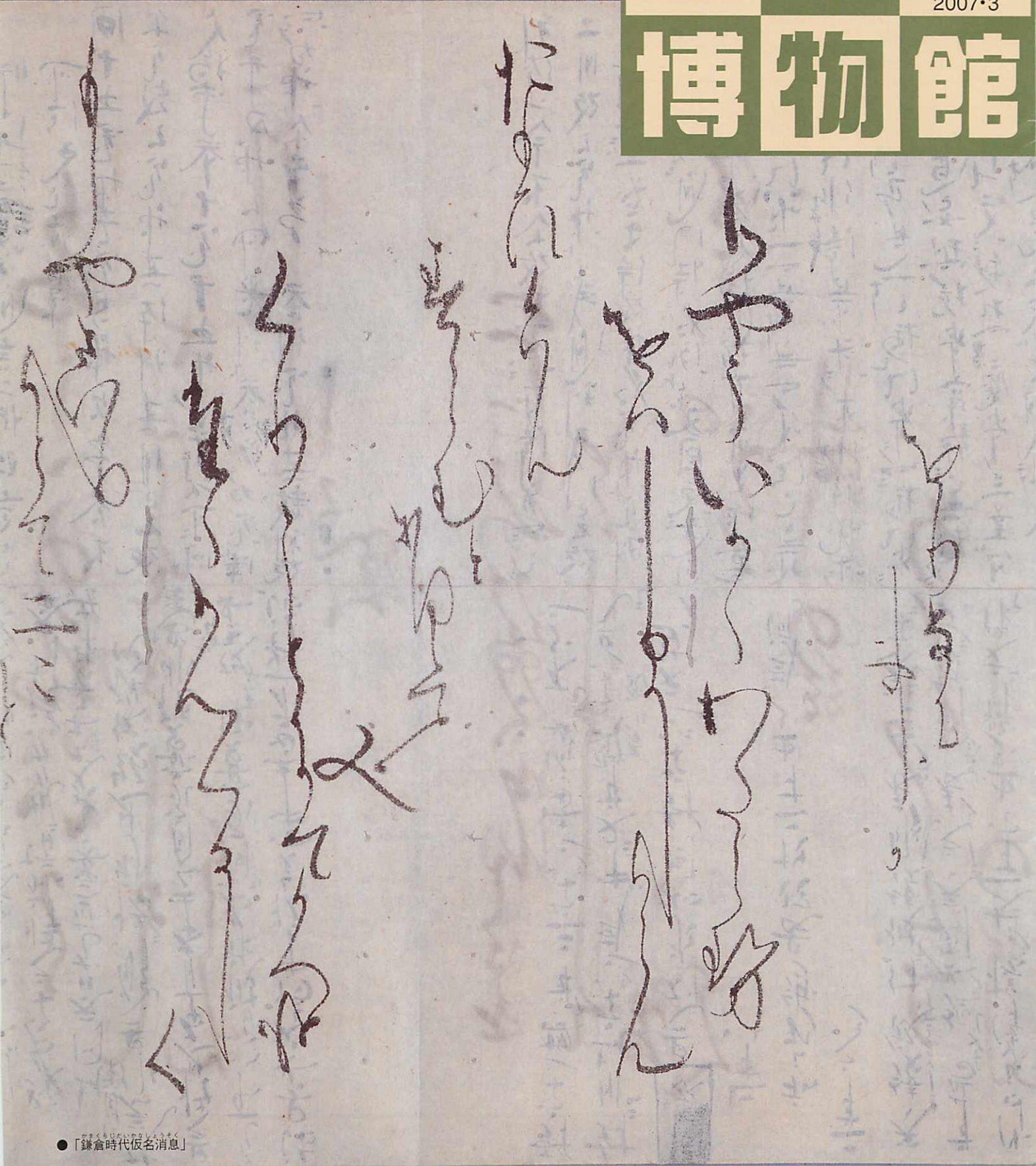
◇収集・収蔵資料の紹介[25] 横浜市指定文化財・紺紙金字法華経

◇＜常設展示室探検＞ 祭りのよろこび

◇出前授業 博物館と学校の連携 —特別展「横浜の礎・吉田新田いまむかし」—の中で

◇「あなたの旅の逸品と思い出」大募集

◇＜知ってますか?＞ビデオ「市場神代郷神楽の世界」



立教大学名誉教授
藤木久志 (ふじき・ひさし)

戦国時代の城は軍事拠点でなく 地域全体の「センター」だった

◎中世史に興味をもった理由は？

大学の人文学部に入った当初は、何をやるか、はつきりしなくて、英文学か独文学か、東洋史も面白いかな、などと考えていました。経済学部の経済史の講義をもぐりで聴きにいったら、その先生の話が面白くて、魅かれていきました。この先生は、休みになるとフィールドワークに出られたのですが、それに誘われて、いわば「カバン持ち」で付いていきました。先生の専門は中世史で、主に北陸の旧家や寺院を回り、残っている古文書を調べたりしました。お供をするうち、中世史のフィールドワークの魅力に取り付かれていったのです。卒論では、鎌倉時代の北陸、越後地方の武士団を取り上げましたが、その武士団が室町時代、戦国時代と続くので、「その後、どうなったんだろう」と調べるにつれ、私の研究対象の時代もくだつていきました。

生き延びるシステム

◎戦国時代、農民が戦場で略奪などを行って稼ぐ「乱取(らんどり)」があったことをはじめ、日本の中世史について、斬新な意見を発表してきました。そのきっかけは。

これまで、戦国時代と言うと、戦争は



武士と武士がぶつかり合うもので、城もそのためだけに造られた、とみられてきました。私は、では、当時の人口の90%を占めた庶民はどういう暮らしをしていたか、ということに関心を持ったんです。戦乱の時代を生き延びるために、どういうシステムがあったのだろうか、と民衆に即して考えていったところ、戦争にも城づくりに関与し、村同士で戦争もやっていったことが分かりました。それを明らかにしたことが「武士は横暴で、民衆は清らかで、戦争になるとひどい目に遭っていた」という見方を崩すことにつながりました。

◎「村同士の戦争」とはどういうことですか。

当時は、村と村との境界は、今と違い、きちんとした区画など無く、まして山中や川には境界線など引いてない。しかし人々は山で狩りや焼き畑をしたり、川

の水を引いたりしますから、互いの利害がぶつかることもあったはず。では、隣り合う村同士の間にはどういうルールがあったのか。それを徹底的に調べていったら、ルールがあったのではなく、村と村の間で年中、戦争をしていたことがわかったのです。そういう時代を経て、江戸時代には村と村の間でルールを決めるなど、合理的になっていったのです。新しい平和な社会をつくり出す引き金になったのが戦国時代、と言えます。

民衆は城を造る技術も

◎関東地方の城郭遺跡の保存について。

城は「えらい武将が造った軍事拠点で、戦争のための装置」という性格だけであって、その周りの村とも密接な関係をもつて存在していました。戦乱の時には村人の避難所となりますし、城主は、城のメンテナンスを村の人に頼む代わりに、年貢はまけてやる、という関係もありました。つまり、単なる軍事施設ではなく、戦国時代を生き抜くための、地域全体のセンターだったのです。また城を造る技術を、民衆が持っていました。

中世の城跡は、土台が石垣ではなく、泥を固めたものがほとんどで、保存が難しいのです。しかし、市民にとって意義のある遺跡ですから、可能な限り丁寧に保存する、そして、このような城の見方を深める必要もあると思います。横浜市の歴史博物館近くに残る中世の茅ヶ崎城跡は、史跡公園として保存・整備されることになりました。戦国時代を民衆の側からとらえ直す動きが広まりつつある中、

中世の城跡の保存・活用は今後増えていくでしょう。

幅広い資料で説得力を

◎横浜歴史博物館に期待することは。

庶民の歴史に重点を置いていたと聞きました。が、徹底的に民衆に根ざした展示をするのは難しい。限定された地域の資料だけでは、断片的で、説得力のある展示にならないからです。地元に残された資料の中で、何か手がかりとなるものを取り上げる場合、それに関連する資料が、必ずよその地域にあるはず、と考えて関連資料を幅広く探すことが大切です。場合によっては外国のものでもよい。地元の資料で注目(ポイント)に値するものが一つあれば、あとはすべてよその資料を並べてもかまわない。大切なのは、地元の資料を生かすために、広い範囲から集めた資料を使うことです。これまでも、そうした努力をしているのは、館内を見て理解できますが、今後も幅広い視野をもち、地元の民衆史について、説得力のある発信を続けていくことが望まれます。

▽ふじき・ひさし プロフィール

●一九三三年、新潟県生まれ。新潟大学文学部卒業、東北大学大学院文学研究科修士。文学博士。日本中世史専攻。聖心女子大学、立教大学などで長く教職に当たった。戦国時代から織豊政権時代にかけての、村や城のシステムに着目した民衆史を特色とする。

●著書 「雑兵たちの戦場」「戦国の村を行く」「飢餓と戦争の戦国を行く」「王一揆と城の戦国を行く」「朝日新聞社」、『戦国社会史論』『豊臣平和と戦国社会』『村と領主の戦国世界』(東京大学出版会)、『戦国の作法』(平凡社)、『戦国大名の権力構造』(吉川弘文館) など。

特別展

ヒトが移る、モノが動く

— 古代の東国にその痕跡を探る —

によせて

日本の古代王権の形成、古代国家の成立には、海を隔てた朝鮮半島や中国大陸との、同時に列島内での人や文物の交流が不可欠でした。

五世紀代に、朝鮮半島から数多く渡来した新しい技術と知識をもつ人々は、ヤマト王権により、製鉄、金属工芸、須恵器生産、織物生産、土木技術などの技術者集団に編成され、王権に多大な影響を与えます。こうした技術や文物は、王権の中枢部のみならず、横浜地域をふくむ東国地域へも伝わり、各地の古墳からは渡来系の文物（朝鮮



姉崎山王山古墳から出土した金銅装単龍環頭大刀
(千葉県立上総博物館蔵)

半島から直接渡来したか、その影響を受けて作られた物）の出土がみられます。千葉県木更津市の上総金鈴塚古墳や群馬県高崎市の観音塚古墳から出土した金銅装単龍環頭大刀・双龍環頭大刀などの武器や馬具、銅鏡などの金属器はその代表例です。また、朝鮮半島の土器やその影響を受けた土器（韓式系土器）も東国の各地で出土しています。

さらに、七世紀後半の朝鮮半島をめぐる唐・高句麗・百濟・新羅の戦いは、多くの人々を海外へと押し出し、日本列島にも多く渡来してきました。ヤマト王権はこれらの人々を受け入れ、一部を東国へと移住させました。上野国多胡郡や武蔵国高麗郡・新羅郡はこうした渡来人を基礎に作られます。東国にやってきた渡来人は、仏教をはじめ、新しい文化や知識、優れた技術をもたらし、東国社会の進展に影響を与えたのです。その痕跡は各地にみることができ、横浜地域や神奈川県域でも渡来系文物が発見されています。

一方、列島の北方に広がる地域は、ヤマト王権や古代国家からは「化外」の地・蝦夷の地とされてきました。この地域と東国地域との間には、古墳時代から人や物の移動をみることができ、渡来系の文物もみられます。これらは、東北地域の首長が王権を介して入手したものとも考えられますが、東国地域との関係も考えることができます。また七世紀後半以降には、横浜地域をふくむ東国から、多くの人が移住させられ、郡を建てて居住し、古代国家の東北経営に従事するようになります。その痕跡は、城柵遺跡やその周辺の集落遺跡から出土する関東地方の技法で作った土器（関東系土器）にみることができ、こうした東国から東北地方への移動は、ヤマトタケルの遠征記事にみえるように、陸路とあわせて早くから太平洋を北上するルートも頻繁に利用されました。古代国家においても、



宮城県御駒堂遺跡から出土した関東系土器（東北歴史博物館蔵）

軍事的な活動のみならず、東国からの移住や移動に利用されていたようです。

特別展では、このような東国地域への、そして東国地域からの人々や文物の移動の様相を出土遺物を中心にみていきます。多様な人と物の移動と、それが古代社会に及ぼした影響を感じていただければと思います。

会期 四月二十八日(土)～六月二十四日(日)
(平野卓治)

企画展「ちよつと昔を探してみよう」と観覧者

—「懐かしの道具たち ひとこと想い出コーナー」から—

はじめに

博物館の展示は、観覧者の方に伝えたい歴史的現象やことがらを、資料を通じて伝えるものです。観覧者の方は、展示を見ることによって新たな知識を学びます。その意味で、展示は博物館から観覧者の方へ向けた情報発信といえます。

昨夏に行った企画展では、博物館からの情報発信のほか、観覧者の方にも展示で情報を発信していただきました。そのコーナーや観覧者の方が発信した情報について紹介します。

一 展示の概要

当館では、二〇〇六年七月一日（土）から九月一日（日）まで、「ちよつと昔を探してみよう——一九六〇年代 くらし・教室・遊びの風景——」と題する企画展を開催いたしました。会期中、二二六八人という多くの方にご覧いただきました。

小学校三年生が初めて歴史を学習する單元「暮らしの移り変わり」をもとに構成し、展示全体を通じて子どもたちがくらし、現在の、父母世代が生まれた頃や子どもの頃である一九六〇年代のくらしを比較できるようにしました。そして父母世代、祖父母世代が、子どもや孫たちにご自分の経

験や体験を話せる、家族で会話ができる展示をめざしました。

ここ数年、一九六〇年代のくらしが映画をはじめ、アミューズメントパークやマスコミなどいろいろなかたちで取り上げられています。大ヒットした映画「ALWAYS 三丁目の夕日」は懐かしさやノスタルジーがあふれる内容でした。つい「昔は良かった」、そんな言葉が出た方もいたのではないのでしょうか。ところが、この時期が本当に良かったのか、洗濯や炊事などくらしの要素一つ一つを考えてみても、今と比べると確実に不便です。例えば未熟な医療技術や衛生環境、公害や過疎と過密といった問題の発生など、当時の状況は単純に良い時代とは言えないはずです。けれども、今現在私たちが抱えている問題を解決するヒントがこの時期にあると考えます。

実はこの展示で伝えたいことがらは、そのヒントを展示の中から見つけ、家族で話し合い、考えてもらうことでした。

二 「懐かしの道具たち ひとこと想い出コーナー」

オープンの前日、展示室の一角に「懐かしの道具たち ひとこと想い出コーナー」（以下「ひとこと想い出コーナー」と名付

けた小さなコーナーを設けました。観覧者の方に資料にまつわる想い出や当時のことを自由に記していただき、その用紙を掲示するコーナーです。

記入する用紙は、アンケートが目的ではないため設問を設けず、記入日・年代・性別と自由記述欄だけにしました。用紙は掲示ボード脇の机の上に置いておき、気がついた方が任意で記入する形式としました。記入された用紙は次の日に掲示すること、意味が読みとれないものや不適切な表現がある用紙は掲示しないことを原則にしました。

展示初日は八歳の方による二枚。翌日さつそく掲示したところコーナーがあることが周知されたのか三〇〜四〇歳代の方から展示の感想や意見を頂戴しました。その後は掲示枚数が増えるにつれてだんだんと記入も増え、二回目の週末が明けると新たに掲示用のボードを追加しました。

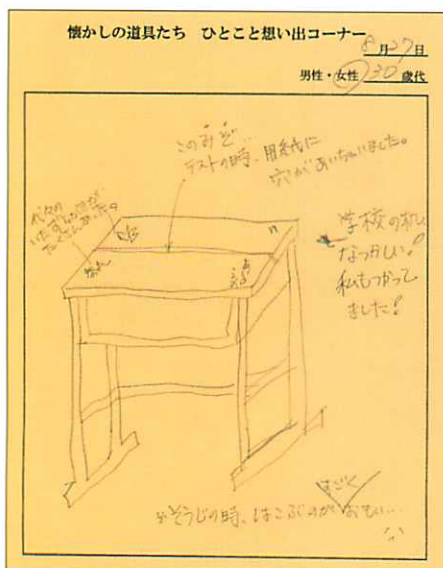
熱心に用紙を読みふける観覧者の方も多く、それに触発されたせいか用紙の数も増えていきました。最終的には七枚の掲示ボードが記入された用紙で埋め尽くさ

れました。観覧者から寄せられた用紙は全部で五七三枚を数えました。

もともと「ひとこと想い出コーナー」は、展示している資料について使った経験がある方からの具体的な情報提供を期待して設けたものです。けれども結果的には、観覧者の方の想い出や当時に對する認識を展示の一環として発信し、他の観覧者に伝えていくコーナーになりました。

三 観覧者が発信した情報

用紙に設けた年代の欄をみると、記入された方の最少年齢は四歳、最高齢は九〇歳代でした。また集計の結果一〇歳未満の子どもたちが二七人、一〇歳代が一三六人



「懐かしの道具たち ひとこと想い出コーナー」の記入用紙（8月27日・女性・30歳代）
小学校の教室で使っていた木の机についてのエピソードです。イラストを交えて、具体的な情報をお寄せ下さいました。



企画展示室内の様子 7月30日 撮影：吉川久雄
写真左端が「ひとこと思い出コーナー」の掲示ボードです。記入された用紙を読みふける観覧者は少なくありませんでした。

で、記入者のうち三五三人、実に七割が二〇歳未満の青少年や子どもたちでした。この展示は夏休み企画として小学校中学年でも理解できる内容とし、市内の小中学生全児童に割引券付チラシを配布しましたが、その効果によって、観覧された方の多くが小学生を含む家族連れでした。また小学校四年生以上にとっては既に学習した内容であるために関心も高く、子どもたちの比率が高くなったと考えられます。

記入された内容はとてもバラエティに富んでいました。記入者の七割を占めた子どもたちは、展示に対する感想を記したり、興味のある資料をスケッチしてくれました。大人の方は、経験談やよみがえった思い出などを寄せてくださいました。記入方法は、オードックスに文章で綴ったものもあれば、イラストを交えて表現したものもありました。

その内容の一部を紹介しましょう。

・「きゅうしよくがいまちがうので、びつくりしました。」（七歳女性）

・「昔の学校と今の学校は少しちがった。人生ゲームは学童に有るけど全くちがう。給食が全くちがうけど、昔の給食の牛にゅうはきらいで、昔に生まれなくて良かった。」（八歳男性）

展示のテーマとなった単元の授業を受けていない小学校三年生以下の子どもたちですが、このように自分の興味や関心にもとづいて今と昔を比較してくれました。

・「昔の教室など、今と全くちがっていて、今は物があふれすぎていると思いました。昔はモノが少なかったけど、昔なりのたのしみがあつたんじゃないだろうか。」（一〇歳代女性）

・「昔のくらしは現代のくらしとくらべると不便ですね。でも、昔の人たちはちえをしぼって発明をして、自分たちなりにゆたかなくらしをしていたのではないでしょう。か。私はそのおかげで現代のくらしは不便ではないのだと思います。」（一〇歳代性別未記入）

既に授業を受けている小学校四年生以上の子どもたちは、現在とかつてを比較した上でそれぞれのくらしを再認識してくれました。

・「センタクキはド田舎でも皆関心がありました。大変なことは皆解っていますから（お母さんが寝込んだりしたら、男の子でもセンタクせざるを得ないので、ほぼ全員その大変なことを良く認識していました）、買えるようになったら買おうと例外なく考えていたと思います。正反対なのは冷蔵庫

で、「主婦がナマケモノの家で買う物だ」

（家事をキチンとする主婦は食材を腐らせることなど有り得ない）、また主婦が忙しい（〇〇商家）家でも「冷蔵庫の古いものを食わせるなど許されん！」、テンヤモノの方がまだマシだった様です。「世の中狂つとる、電気屋は女をナマケモノにする機械を売り付ける気か。」「？？ご参考までに私の家で冷蔵庫を買ったのは「大安売り」というのが一般的になって、大量にモノを買うようになってからでした。電気代と償却、保存の手間を考えると、果たして「トク」だったのでしょうか？」（七〇歳代男性）

・「忘れもしない小学四年生。グリコのキャラクターに当たり券五枚で「野球盤」がもらえるキャンペーンがあつた。欲しくて欲しくて親の農作業の手伝いをしたものでした。まだ一般には販売をしていない夢のような「野球盤」でした。もちろん、友達も持っています。苦労してやっと手に入れた時の感動は五〇年たった今でもはっきり覚えています。おもちゃに余り縁のない子供時代に最高の思い出となっていた「野球盤」なのに、五〇余年の間どこかへ姿を消してしまい、今日でんじしてある「野球盤」を見て感慨深いものがあります。何でも簡単に手に入る現代、今の子供達も、五〇年後に私と同様に涙が出るほど、なつかしく思えるものが残っていてくれる事を希望して・・・。」（五〇歳代男性）

ここに挙げたのはまさに「ひとこと思い出コーナー」に期待した、当時を経験された方ならではの情報です。そして思い出だけにとどまらず、現在失われてかつてのくらしの中にあつた「何か」を記してくれて

いるように思います。

おわりに

「ひとこと思い出コーナー」の内容のごく一部を紹介させていただきました。子どもたちは、それぞれの知識や関心に応じて今と昔を比較し考えてくれました。大人の方は、思い出や懐かしさのほか、一九六〇年代という時期にある今後に活かせる何か、子どもたちに伝えるべき何かを表現されたように思います。展示を通じて伝えようとした「かつてのくらしの中から、今に活かせる何かを見つけること」について皆さんに理解いただき、そして「ひとこと思い出コーナー」を通じて自らの経験や感想を情報として発信していただけたのです。この情報が展示に加わることで、別の観覧者の方が自らの経験なり関心をふまえて比較し、また何かを見つけ、そして考える。このようなサイクルが「ひとこと思い出コーナー」によって生まれたのだと思います。

『横浜市歴史博物館紀要一』号には、「ひとこと思い出コーナー」にお寄せいただいた五七三枚のうち、絵だけ等のものを除いた五〇三枚を掲載いたしました。観覧者の方が展示を見て一九六〇年代について何を感じたのか、何を発信したのか、何うことができる資料です。ご関心のある方はぜひご覧いただきたいと思います。

最後にこの場を借りて、展示開催にあたりご協力をいただいた個人や諸機関にあらためてお礼申し上げます。そして展示をご観覧いただいた多くの方、「ひとこと思い出コーナー」にご記入下さった方に心からお礼申し上げます。（刈田 均）

横浜市指定文化財

紺紙金字法華經

横浜市歴史博物館では、保土ヶ谷区法性寺所蔵の「紺紙金字法華經」全八巻を預かりしています。平安時代末・鎌倉時代初めに制作されたと考えられるこの經典は、平成八年（一九九六）に横浜市の指定文化財になりました。

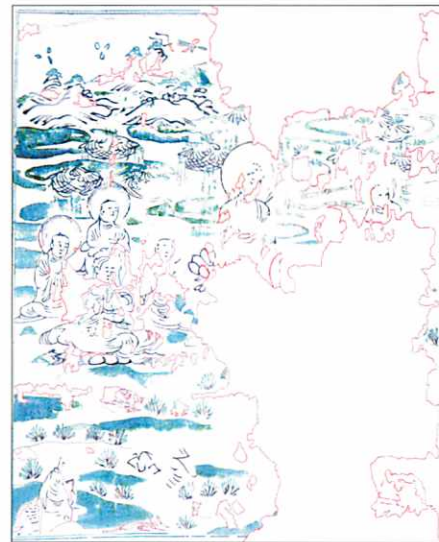
紺紙金字法華經とは、紺色に染めた料紙に金泥で經典を写したもので、平安時代に、浄土世界について「瑠璃地覆われ七宝で莊嚴されていた」という考えがあったことから成立した裝飾のかたちです。經典の巻頭には見返し絵と呼ばれる絵があり、靈鷲

山（みよの）のふもとで教えを説く釈迦（しやくせ）説法（せっぽう）図（ず）と、その下部に經典の内容をイラスト化した経意（けいい）絵（え）が描かれます。

平安時代の終わり頃になると戦乱や飢饉（きげん）が起こり、社会不安が高まります。同時に釈迦如来（しやくせにがうらい）の入滅（にっぽつ）後に正法・像法・末法の時代（まっぽう）をへて仏教（ぶつこう）が衰退（すいせき）するという末法思想（まっぽうしゆしやう）が浸透（しんとう）して、地獄（じごく）や極楽（ごくらく）などの来世（らいせい）に対するイメージが固（か）まりました。人々（ひと）はどのような苦しみを逃（のが）れて浄土（じやうど）に往生（おうじやう）できるかを考（かんが）え、特に裕福（よふく）な貴族（きぞう）達は、平家（へいけ）の納経（のうけい）や扇面法華經（せんめんぽうわけい）冊子（さし）など、様々な裝飾（しやうじ）を施（ほ）した經典（きんけん）を数多（おほい）く制作（せいぞう）して寺院（いんねん）や神社（しんしゃ）に奉納（ほうな）しました。寺院（いんねん）や仏像（ぶつざう）を造り、写經（しやけい）を奉納（ほうな）することとで素晴らしい世界（せかい）に生まれ変わ（か）れると信（しん）じて



紺紙金字法華經 卷4 見返し絵（保土ヶ谷区法性寺蔵）



卷7 見返し絵トレース図 作図・磯崎直都、校正・藤原重雄

いたのです。このような中で、紺紙金字法華經（こんしきんぽうほめい）もさかんに作られていきました。

經典制作（きんけんせいぞう）の需要（きやう）が高（たか）まると、注文（じゆんもん）を受けてそれら（それら）を作成（せいぞう）する工房（こうぼう）が京都（きやうと）や奈良（なら）・鎌倉（かまくら）などの都市部（としぶ）にできます。ひとつの經典（きんけん）制作（せいぞう）に何人（なんにん）もの絵（え）や写經（しやけい）の職人（しやくじん）が関（かん）わっていったようです。調査（きやうさ）の結果（けいこく）、法性寺（ほうしやうじ）の紺紙金字法華經（こんしきんぽうほめい）には、のべ三〇人（さんじゅうにん）もの筆跡（ひつせき）が確認（きんぎん）できました。また法華經（ほふわけい）の見返し絵（みはしえ）のうち、六（む）〜八（はち）巻（まき）のものは、破損（はきん）がひどくて絵（え）を確認（きんぎん）できませんでしたが、ポジフィルム（ポジフィルム）をトレース（トレース）することで、当初（しやうしゆ）の図様（ずやう）をかいま見（み）ることができています。さらに絵（え）の描（えが）かれ方（かた）から、法性寺（ほうしやうじ）の法華經（ほふわけい）はもとともあった複数（ふくすう）の法華經（ほふわけい）八巻（はちまき）を、取り合（あ）わせて一（いっ）具（ぐ）に仕立（しだ）てたものとも推測（すいそく）されています。

（阿諏訪 青美）

常設展示室探検

祭りのよろこび

江戸時代（えどじだい）、村人（むらじん）たちの四季（しき）の営（い）みの中心（ちゆうしん）となっていたのは、米（こめ）作りでした。田植（いり）えや稲刈（いり）りといった農作業（のうさぎやう）の節目（せきぶく）にはさまざまな年中行事（なちゆうぎんぎ）が行（い）われ、中でも夏（なつ）や秋（あき）に行（い）われる鎮守（ちんしゆ）の祭り（まつり）には、豊作（とんさく）の祈願（いのり）や感謝（かんしや）の気持ち（きもち）が込（こ）められていました。

文政（ぶんせい）7年（しちねん）（1824）作製（さくせい）の神奈川（かながわ）



宿（しゆく）の地誌（ちし）「神奈川（かながわ）砂子（すなご）」には、神奈川（かながわ）町の鎮守（ちんしゆ）・熊野社（くまのしゃ）（熊野神社（くまのしんしゃ））の夏（なつ）祭り（まつり）の情景（けいぎやう）が描（えが）かれています。その内（うち）、神輿（みこし）が町内（まちうち）を巡行（めぐりやう）する様子（ようす）を描（えが）いた「御輿（みこし）渡御（わたりぎ）」をもとに、当時（たうじ）のお祭り（まつり）の風景（ふうしやう）を再現（さいげん）したのが、この模型（もけい）です。祭（まつり）りのエネルギー（エネルギー）が人（ひと）から人（ひと）へと伝（つた）わり、次第（しだい）に力（ちから）強く大（お）きくなってい（い）くことを感じ（かんじ）とることができ（でき）ます。

出前授業

博物館と学校の連携
特別展「横浜の礎・吉田新田いまむかし」の中で

小学校三・四年生の社会科に、「地域の発展に尽くした先人の具体的事例を調べろ」という学習があります。これは子どもたちに、自分たちの生活が向上したのは、地域の発展に尽くした先人の願いや工夫、努力、苦心によるものであることを理解させ、自分たちの住むまちに対する誇りと愛情を育てようとするものです。

さて、今の横浜市役所や関内駅の西側は、昔、釣り鐘状の入海でしたが、江戸時代に吉田勘兵衛らによって埋め立てが行われ、吉田新田と呼ばれました。開港後は、近くに外国人居留地ができ多くの人が集まってきました。それにもない吉田新田も新しいまちとして開発され、伊勢佐木町ができるなど横浜の中心地として大きく発展してきました。横浜市の多くの学校では、地域の発展に尽くした先人の事例を調べる学習に適した内容であるとして、吉田新田の開発を四年生が学習しています。

平成十八年（二〇〇六）は、吉田新田の開発が始まって三五〇周年にあたり、これを記念して当館で特別展「横浜の礎（いしずえ）・吉田新田いまむかし」を開催しました。その関連事業として、当館の斉藤学芸員が、かつての吉田新田の中にある南区を中心として七つの小学校に出向き学習支援をする、いわゆる出前授業を行いました。学

芸員が理め立ての様子や、工程、理由などについて説明し、子どもたちもすっかりと話を聞き、メモなどをとっていました。また子どもたちの質問を中心に学習を進めた学級もありましたが、専門家である学芸員の話ということで熱心に学習に取り組んでいました。このように、博物館展示物の活



出前授業風景（横浜市立石川小学校）

用と学芸員による学習支援という、新しいスタイルの連携事業を行うことができました。

出前授業の実践校である立野小学校の野間先生から、「古文書などの資料を手がかりに、考えはするものの想像の域を脱しない子どもたちの思考。そこに専門家としての学芸員さんの話をタイムリーに聞くことで、三五〇年前の吉田勘兵衛さんの思いに迫ることができました。（中略）子どもたちからは、『堤の工夫が二回目の工事を成功させたんだ』『勘兵衛さんも挑戦者だったんだね』などの発言があり、資料だけでなく、専門家との出会いによって資料（事実）と資料（事実）の間の溝を埋めることができ、授業が深まっていきました。（中略）こうして博物館とのリンクを図ることで新しい社会科の授業展開ができたと思います」という感想をいただきました。

横浜市は学校数が多いのでいろいろと課題があり、いつでもこの様な試みができるとは限りませんが、特別展を機会に出前授業という効果的な学校連携事業ができました。

（藤崎直樹）

あなたの旅の
逸品と想い出

大募集



木彫りのペンダントヘッド
1962年8月阿寒湖畔で購入
坂本彰さん所蔵

博物館では、今年の夏に昭和三〇～四〇年代を中心に、国内の旅の展示を実施いたします。修学旅行や新婚旅行、長い時間をかけて目的地に向かう交通事情、おみやげなどを通して当時の「旅」を紹介する予定です。

博物館ではこの企画展に関連して「あなたの旅の逸品と想い出」を募集いたします。市民の皆さんがご持ちの、当時の旅の逸品とそれにつながる想い出やエピソードなどを記してお寄せ下さい。当時の新婚旅行で購入した品と旅の想い出、ユースホステルのシーツと宿泊のエピソードなど、旅の逸品と想い出を明記してご応募ください。

応募いただいた方の中から選考の上、その逸品と想い出を展示する中でご紹介したいと思います。

応募方法／A四用紙に氏名・住所・電話番号・年齢・ご所蔵の旅の逸品の名前・その旅の時期とエピソードと想い出を記入の上、郵送あるいはFAXで横浜市歴史博物館「旅の逸品と想い出」係宛お送り下さい。

締切／平成一九年五月二日

選考の結果、該当者の方には博物館からご連絡を差し上げます。ご応募いただいた方には、もれなく企画展の招待券を進呈致します。

申込先／〒二四〇〇〇三
横浜市都営区中川中央一八八
FAX〇四五（九二）七七八
（FAX番号の間違いにはくれぐれも注意下さい）

横浜市歴史博物館「旅の逸品と想い出」係
※申込の個人情報他は目的には使用いたしません。

情報をぜひお寄せ下さい。



港中学校の修学旅行のしおり
1969（昭和44）年 三浦清さん所蔵

連絡先／〒二四〇〇〇三
横浜市都営区中川中央一八八

横浜市歴史博物館 企画展「旅のキオク（仮題）」担当
TEL〇四五（九二）七七八七

これからの催しもの

- ◎企画展「横浜の神代神楽—神楽師たちの近世・近代—」～4月15日(日)
・神代神楽公演 4月1日(日) 11:00～・13:00～・14:30～
- ◎特別展「ヒトが移る、モノが動く—古代の東国にその痕跡を探る—」
4月28日(土)～6月24日(日)
・特別展関連講演会「古代の王権・国家と渡来人」5月13日(日)、
「考古学からみた東国の渡来人」6月10日(日)
・遺跡見学ツアー「那須地域を見学する日帰りバス・ツアー」6月7日(木)
- ◎企画展「旅のキオク」(仮題) 7月14日(土)～9月2日(日)
- ◎堅穴住居に泊まろう 9月1日(土)・2日(日)

表紙写真は

「鎌倉時代(仮名)消息」。鎌倉時代の女性の手紙です。平成17年(2005)に横浜市指定文化財になりました。内容は贈物への礼や再会を希望するものです。宛先はわかりませんが、鎌倉幕府執権を務めた金沢北条氏の女性がかいて、金沢区 称名寺の僧侶に送ったものと推測されています。

??????? 知ってますか ???????

ビデオ「市場神代郷神楽の世界」

博物館の常設展示室内の映像コーナーでは、横浜の歴史や民俗、伝統、地域文化財や日本の通史などに関するビデオを見ることが出来ます。この番組の中には、当館がオリジナルに制作したビデオも数多くあります。今回はその中から、2006年に制作した『市場神代郷神楽の世界』をご紹介します。

市場神代郷神楽は、江戸時代から伝えられる神楽で、鶴見区市場の熊野神社に本拠があったことからこの名がついています。現在は矢向の日枝神社に本拠をうつし、さまざまなお祭りで神楽を奉納しています。ビデオでは、市場神代郷神楽の歴史を、古文書と現在の神楽奉納の映像を交えながら紹介しています。神楽の撮影は、実際に川崎大師と大山阿夫利神社の祭礼にてロケを行いました。臨場感のあるお神楽の映像をお楽しみいただけたと思います。

「市場神代郷神楽の世界」撮影風景

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
都筑民家園
毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

- 交通案内図
横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
〔「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分〕



駐車場あり(1時間200円)

- インターネットホームページ
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

(2006年10月1日～2007年3月31日)

- 10月6日 古文書解説教室(12月8日まで連続10回)
- 10月7日 吉田新田開港350周年記念特別展「横浜の礎(いしづえ)・吉田新田いまむかし」開会式典、開催(11月26日まで)
- 10月7・8日 体験学習「土偶づくり」
- 10月25日 ふるさと横浜探検「駿河の東海道三宿と薩埵峠をたずねて」
- 10月28日 ラストサタデープログラム・学芸員による展示解説(近現代)
- 11月1日 埋蔵文化財センター講座「横浜の考古学—港北ニュータウン遺跡群の語るもの—」(11月29日まで5回)
- 11月18日 特別展関連企画フォーラム「吉田新田を探る」(於・教育文化センター)
- 11月18・19日 体験学習「風車づくり」「ぞうりあみ」
- 11月22日 ふるさと横浜探検「吉田新田周辺の歴史散歩」
- 11月25日 ラストサタデープログラム・学芸員による展示解説(中世)
- 12月9日 「横浜市指定登録文化財展・横浜の遺跡展」開催(1月14日まで)
- 12月16・17日 体験学習「風づくり」
- 12月23日 エントランスホールコンサート サクソフォーン四重奏による「クリスマスコンサート」
- 12月23日 ラストサタデープログラム・学芸員による展示解説(近世)
- 1月14日 企画展関連講座「月出松遺跡にみる縄文ムラ」
- 1月16日 新収蔵資料の展示紹介(1月21日まで。解説21日)
- 1月17日 古代史講座(2月14日まで連続5回)
- 1月27・28日 博物館感謝デー
- 1月27日 テーマ展「紺紙金字法華経の世界—平安時代の装束経—」開催(2月18日まで)
- 1月27日 ラストサタデープログラム・学芸員による展示解説(古代)
- 1月28日 開館12周年記念特別講演会 藤木久志「戦国の村と城」
- 2月3・4日 体験学習「紙すき」
- 2月4日 テーマ展関連講演会「絵の美—見返し絵の魅力—」
- 2月11日 土器づくり教室(3月24日まで4回)
- 2月11日 テーマ展関連講演会「書—美—院政期における典籍書写と書風—」
- 2月20日 新収蔵資料の展示紹介(2月25日まで。解説25日)
- 2月24日 ラストサタデープログラム・学芸員による展示解説(原始I)
- 3月3日 企画展「横浜の神代神楽—神楽師たちの近世・近代—」開催(4月15日まで)
- 3月18日 企画展関連研究講座「近世・近代の神楽奉納と神楽師のネットワーク」
- 3月20日 新収蔵資料の展示紹介(3月25日まで。解説25日)
- 3月21日 企画展関連講演会「里神楽の魅力と伝承」
- 3月22日 ふるさと横浜探検「三浦半島の城跡探訪」
- 3月24日 ラストサタデープログラム・学芸員による展示解説(原始I)

PRESENT 読者プレゼント

いつも博物館ニュースをお読みいただきありがとうございます。ニュースに関する感想やご意見を寄せて下さい。お寄せいただいた方の中から5人の方に博物館オリジナルグッズ(TシャツはMサイズのみ)をさしあげます。はがきもしくはFAXで、お名前、ご住所、年齢、このニュースを手にしたところ、ニュースについての感想・要望、をお書きのうえ、5月31日までに、博物館「読者プレゼント係」までお送り下さい。当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



編集後記

桜の開花がはじまると、遺跡公園はたくさんのお花見の人たちでにぎわいます。遠出をして桜の名所を楽しむ方も多く見られます。夏休みには旅をテーマにした展覧会を開催します。家族旅行や友達との旅行、皆様はどんな旅の記憶をお持ちでしょうか。是非たくさん思い出の写真を宝物として、博物館までお寄せください。

(H・A)

